

## 神の言葉が臨んだ預言者等

預言者は、自己の思想や思惑によらず、神の靈感により啓示された神意（託宣）を伝達し、あるいは解釈して、神と人とを仲介する者をいう。聖書（聖句抜粋）に記されている預言者等は次の通りである。

創世記	15:01 これらのことの後で、 <u>主の言葉が幻の中で【アブラム】に臨んだ</u> 。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」
出エジプト記	06:02 神は【モーセ】に仰せになった。「わたしは主である。」
	07:01 <u>主はモーセに言われた</u> 。「見よ、わたしは、あなたをファラオに対しては神の代わりとし、 <u>あなたの兄【アロン】はあなたの預言者となる</u> 。 15:20 アロンの姉である女預言者【ミアム】が小太鼓を手にとると、他の女たちも小太鼓を手を持ち、踊りながら彼女の後に続いた。
民数記	24:02 【バラム】は目を凝らして、イスラエルが部族ごとに宿営しているのを見渡した。 <u>神の霊がそのとき、彼に臨んだ</u> 。
士師記	04:04 ラピドの妻、女預言者【デボラ】が、士師としてイスラエルを裁くようになったのはそのころである。
	11:29 <u>主の霊が【エフタ】に臨んだ</u> 。彼はギレアドとマナセを通り、更にギレアドのミツパを通り、ギレアドのミツパからアンモン人に向かって兵を進めた。
サムエル記上	03:20 ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルのすべての人々は、【サムエル】が <u>主の預言者として信頼するに足る人であることを認めた</u> 。 22:50 預言者【ガド】が、「要害にとどまらず、ユダの地に出て行きなさい」と言ったので、ダビデはハレトの森に移って行った。
	06:11 そのとき、 <u>主の言葉が【ソロモン】に臨んだ</u> 。 11:29 そのころ、ヤロブアムがエルサレムを出ると、シロの預言者【アヒヤ】が道で彼に出会った。預言者は真新しい外套を着ていた。野には二人のほかだれもいなかった。 16:07 またハナニの子、預言者【イエフ】によって主の言葉がバシャとその家に臨んだ。それはバシャが、その手の業によって主を怒らせ、ヤロブアムの家に倣って、主の目に悪とされることを行い、その手の業によって主の怒りを招いたためであり、またヤロブアムを討ったためである。 18:36 献げ物をささげる時刻に、預言者【エリヤ】は近くに来て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること、またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかになりますように。 22:14 【ミカヤ】は、「主は生きておられる。 <u>主がわたしに言われる事をわたしは告げる</u> 」と言って、
列王記上	06:12 家臣の一人が答えた。「だれも通じていません。わが主君、王よ、イスラエルには預言者【エリシャ】がいて、あなたが寝室で話す言葉までイスラエルの王に知らせているのです。」 20:11 そこで預言者【イザヤ】が主に祈ると、主は日時計の影、アハズの日時計に落ちた影を十度後戻りさせられた。 22:14 祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは女預言者【フルダ】のもとに行った。彼女はハルハスの孫でティクワの子である衣装係シャルムの妻で、エルサレムのミシュネ地区に住んでいた。彼らが彼女に話し聞かせると、
	17:01 ダビデは王宮に住むようになり、預言者【ナタン】に言った。「見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、主の契約の箱は、天幕を張ってその下に置いたままだ。」
	12:05 預言者【シマヤ】が、シシャクのことエルサレムに集まっているレハブアムとユダの將軍たちのところに来て言った。「主はこう言われる。『あなたたちはわたしを捨てた。わたしもあなたたちを捨て、シシャクの手に渡す。』」 15:01 オデドの子【アザルヤ】に神の霊が臨んだ。 15:08 アサはこの言葉と預言者【オデド】の預言を聞いて、勇気を得、ユダとベニヤミンの全土から、またエフライムの山地で攻め取った町々から、忌むべき偶像を除き去り、主の前廊の前にある主の祭壇を新しくした。 20:14 その会衆の中で、アサフの子孫のレビ人【ヤハジエル】に主の霊が臨んだ。ヤハジエルの父はゼカルヤ、祖父はベナヤ、更にエイエル、マタンヤとさかのぼる。 20:37 そのとき、マレシャ出身のドダワフの子【エリエゼル】がヨシャファトに向かってこう預言した。「アハズヤと協定を結んだため、主はあなたの事業を打ち壊される。」こうして船は難破し、タルシシュに行くことは妨げられた。
歴代誌上	17:01 ダビデは王宮に住むようになり、預言者【ナタン】に言った。「見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、主の契約の箱は、天幕を張ってその下に置いたままだ。」
歴代誌下	12:05 預言者【シマヤ】が、シシャクのことエルサレムに集まっているレハブアムとユダの將軍たちのところに来て言った。「主はこう言われる。『あなたたちはわたしを捨てた。わたしもあなたたちを捨て、シシャクの手に渡す。』」 15:01 オデドの子【アザルヤ】に神の霊が臨んだ。 15:08 アサはこの言葉と預言者【オデド】の預言を聞いて、勇気を得、ユダとベニヤミンの全土から、またエフライムの山地で攻め取った町々から、忌むべき偶像を除き去り、主の前廊の前にある主の祭壇を新しくした。 20:14 その会衆の中で、アサフの子孫のレビ人【ヤハジエル】に主の霊が臨んだ。ヤハジエルの父はゼカルヤ、祖父はベナヤ、更にエイエル、マタンヤとさかのぼる。 20:37 そのとき、マレシャ出身のドダワフの子【エリエゼル】がヨシャファトに向かってこう預言した。「アハズヤと協定を結んだため、主はあなたの事業を打ち壊される。」こうして船は難破し、タルシシュに行くことは妨げられた。

歴代誌下	36:12 彼は自分の神、主の目に悪とされることを行い、主の言葉を告げる預言者【エレミヤ】の前にへりくだらなかつた。
エズラ記	05:01 預言者【ハガイ】とイドの子【ゼカリヤ】が、ユダとエルサレムにいるユダの人々に向かってその保護者であるイスラエルの神の名によって預言したので、
ネヘミア記	06:14 わが神よ、トビヤとサンバラトのこの仕業と、わたしを脅迫した女預言者【ノアドヤ】や他の預言者たちを覚えていてください。
エレミヤ書	28:10 すると預言者【ハナンヤ】は、預言者【エレミヤ】の首から軛をはずして打ち砕いた。
エゼキエル書	01:03 カルデアの地ケバル川の河畔で、主の言葉が祭司ブジの子【エゼキエル】に臨み、また、主の御手が彼の上に臨んだ。
ホセア書	01:01 ユダの王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代、イスラエルの王ヨアシュの子ヤロブアムの時代に、ベエリの子【ホセア】に臨んだ主の言葉。
ヨエル書	01:01 ペトエルの子【ヨエル】に臨んだ主の言葉。
アモス書	01:01 テコアの牧者の一人であった【アモス】の言葉。それは、ユダの王ウジヤとイスラエルの王ヨアシュの子ヤロブアムの時代、あの地震の二年前に、イスラエルについて示されたものである。 ※1
オバデヤ書	00:01 【オバデヤ】の幻。我々は主から知らせを聞いた。使者が諸国に遣わされ、「立て、立ち上がって／エドムと戦おう」と告げる。主なる神はエドムについてこう言われる。
ヨナ書	01:01 主の言葉がアミタイの子【ヨナ】に臨んだ。
ミカ書	01:01 ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、モレシエトの人【ミカ】に臨んだ主の言葉。それは、彼がサマリアとエルサレムについて幻に見たものである。
ナホム書	01:01 ニネベについての託宣。エルコシュの人【ナホム】の幻を記した書。
ハバクク書	03:01 預言者【ハバクク】の祈り。シグヨトの調べに合わせて。
ゼファニヤ書	01:01 ユダの王アモンの子ヨシヤの時代に、クシの子【ゼファニヤ】に臨んだ主の言葉。クシはゲダルヤの子、ゲダルヤはアマルヤの子、アマルヤはヒズキヤの子である。
ゼカリヤ書	01:01 ダレイオスの第二年八月に、イドの孫でベレクヤの子である預言者【ゼカリヤ】に主の言葉が臨んだ。
マラキ書	01:01 託宣。【マラキ】によってイスラエルに臨んだ主の言葉。
マタイによる福音書	24:15 「預言者【ダニエル】の言った憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たら——読者は悟れ——、
ルカによる福音書	02:36 また、アシェル族のファヌエルの娘で、【アンナ】という女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、

## 【特記事項】

### <1>律法と預言者

①律法：創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記

②預言者：ヨシュア記、士師記、サムエル記上、サムエル記下、列王記上、列王記下、イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、十二預言書（ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書）

### <2>アモス

「テコアの牧者の一人であったアモス」と聖書の記し方は、他の預言者とかなり異なっている。

一般に、アモスは無学であり、祭司の血筋でなかったにも関わらず神に召されたとされている。その時、アモスは、ユダヤ地方にあるテコアの村の羊飼いであり農夫だった。テコア（「拍手」を意味する）は、ユダの丘陵地帯、エルサレムの南に位置する。西に耕作地、東に草原があり、農業と牧畜に適していた。

アモスは、南のユダ王国出身であったが、北イスラエルの民に対して預言した。預言者としての活動は預言者イザヤ、ホセア、ミカが活動を始める数年前の短い期間であったとされる。

アモスについて直接述べられているのは「アモス書」の7章10節～16節のみであるので、この箇所だけから、彼が、単なる普通の羊飼いであったかどうかを判断するのは短絡的と思われます。

アモスはユダヤ地方とその周辺の国々の歴史をよく知っており、詩的な表現を用いて預言するなど、豊かな言語の才能を持っている点から察しても、かなりの知識人であったのではないのでしょうか。